

奈良国立文化財研究所要項

I 事業概要

1 研究普及事業

公開講演会

- (1) 1979年5月19日 第45回公開講演会
「古代文献史料にみられる土器」 吉田 恵二
「斑鳩の瓦工たち」 岡本 東三
- (2) 1979年11月17日 第46回公開講演会
「郡衙遺跡をめぐる諸問題」 山中 敏史
「イタリアにおける町並保存」 上野 邦一

現地説明会

- (1) 1979年5月26日 平城京左京三条四坊七坪発掘調査現地説明会 亀井 伸雄
- (2) 1979年7月21日 山田寺第3次発掘調査現地説明会 川越 俊一
- (3) 1979年8月26日 平城宮跡第119次発掘調査現地説明会 加藤 允彦
- (4) 1979年9月8日 大宮大寺第6次発掘調査現地説明会 干田 剛道
- (5) 1979年9月19日・20日 薬師寺東僧房発掘調

査現地説明会

菅原 正明

- (6) 1979年12月1日 平城宮跡第117次発掘調査現地説明会 立木 修
- (7) 1979年11月24日 藤原宮跡第27次(東面北門)発掘調査現地説明会 小林 謙一
- (8) 1980年3月8日 平城宮跡第120次発掘調査現地説明会 中村 雅治

平城宮跡資料館・覆屋公開

- (1) 春季特別公開 1979年4月28日～5月6日
見学者 6,601名
- 秋季特別公開 1979年10月20日～11月4日
見学者 11,460名
- (2) 見学者数

区 分	資料館	覆 屋	計
1979年	39,503	42,205	81,708
累 計	325,684	623,503	949,187

*資料館は1970年度・覆屋は1968年度以降

2 1979年度文部省科学研究費補助金による研究

種 別	研 究 課 題	研究 代 表 者	交 付 願
一 般 研 究 A	大和国荘園の復原的研究	田 中 稔	19,000千円
一 般 研 究 B	塔本塑像の復原的研究	田 中 義 恭	3,000
一 般 研 究 C	魏晋南北朝時代墳墓の構造的 research	町 田 章	500
"	飛鳥時代石造物の研究	猪 熊 兼 勝	500
"	古代高床倉庫の系譜的研究	木 下 正 史	1,950
"	民家の軸部構造の系統的発展に関する研究	吉 田 靖	800
"	堅穴住居の構造と立地条件に関する研究	宮 本 長 二 郎	1,300
一 般 研 究 D	大画面の経典説話図の研究	百 橋 明 穂	450
"	縄文時代の小形磨製石斧の研究	土 肥 孝	440
"	奈良・平安時代墳墓の基礎的研究	黒 崎 直	450
"	西日本における妻入町家群の町形成に関する基礎研究	上 野 邦 一	420
奨 励 研 究 A	木簡の書道史的研究	今 泉 隆 雄	800
"	近畿地方における縄文土器の編年と地域性	岡 本 東 三	700
"	古代・中世における土器容量の変遷過程	吉 田 恵 二	700
"	古代寺院遺構の研究	山 中 敏 史	700
"	瓦製作技法の伝播と地域的変容の研究	山 崎 信 二	700
"	七世紀寺院の系譜的研究	松 本 修 自	300
"	日本上代庭園の植物生態に関する研究	光 谷 拓 実	700
計	18件		33,410

3 飛鳥資料館の運営

展 示

- 第一展示室 常設展示
 第二展示室 特別陳列「桜井の仏像」
 (1979.3.27～1979.5.6)
 特別展示「飛鳥時代の古墳
 ー高松塚とその周辺ー」
 (1979.9.28～1979.11.11)

普 及

前年同様インフォメーションルームで観覧者の質問に応じている。また特別展示のカタログとして「桜井の仏像」及び「飛鳥時代の古墳」を刊行。

入館者数 (1979.4.1～1980.3.31開館日数303日)

	普通観覧	団体観覧	有料計	無 料	合 計
一 般	46,321	21,179	170,869	6,817	177,686
高・大	17,811	33,298			
小・中	14,160	38,100			
計	78,292	92,577			

模造製作

高松塚古墳出土品(棺飾金具)
 橘寺火頭形埴仏, 石のカラト古墳

4 埋蔵文化財センターの研修・指導

研 修 埋蔵文化財の保護に資することを目的として、主に地方公共団体の埋蔵文化財保護行政担当者を対象に次の研修を実施した。

- (1) 昭和54年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
 (写真測量課程)
 1979年5月9日～5月19日(参加者12名)
- (2) 昭和54年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
 (自然遺物課程)
 1979年6月11日～6月23日(参加者12名)
- (3) 昭和54年度埋蔵文化財発掘技術者一般研修
 1979年7月23日～8月25日(参加者24名)
- (4) 昭和54年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
 (遺跡調査課程)
 1979年9月17日～10月6日(参加者16名)
- (5) 昭和54年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
 (遺物保存科学課程)
 1979年10月18日～11月2日(参加者13名)

- (6) 昭和54年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
 (遺跡保存整備課程)
 1979年12月3日～12月12日(参加者24名)
- (7) 昭和54年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
 (遺物整理課程)
 1980年1月28日～2月9日(参加者24名)
- (8) 昭和54年度埋蔵文化財発掘技術者特別研修
 (第1回特殊調査技術課程)
 1980年2月14日～2月18日(参加者24名)
- (9) 昭和54年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
 (調査計画課程)
 1980年3月3日～3月13日(参加者18名)
- (10) 研修員受入

- ア 御村 精治(度会郡小俣中学校教諭)
 垣見 博一(三重県立白子高校教諭)
 1979年10月2日～11月20日
 榎本 義譲(松阪市第四小学校教諭)
 1979年6月4日～8月3日
- イ 小嶋 芳孝(石川県立埋蔵文化財センター
 主事)
 1979年6月25日～6月30日
- ウ David Albert Slawson(米国インディア
 ナ大学大学院生)
 1979年9月21日～12月5日
- エ Bahira Al-Kaissi(イラク文化芸術省考
 古総局化学技師)
 Thakaa Gazie Magid(イラク文化芸術省
 考古総局保存技師)
 1979年12月17日～12月21日
- オ 石井 毅(財団法人茨城県教育財団主任
 調査員)
 佐野 正(〃)
 1980年3月21日～3月25日

調査整備等指導

(北海道)史跡旧下ヨイチ運上家, (青森)弘前
 城三の丸庭園遺跡, (岩手)蒜内遺跡, 二戸市上
 里遺跡, 史跡胆沢城跡, (秋田)秋田城跡, 史跡
 弘田柵跡, 東北縦貫自動車道建設関係遺跡, (福
 島)慧日寺跡石塔, (群馬)新保遺跡, 芳賀団地
 東部遺跡, (埼玉)辛亥銘鉄剣保存, (石川)和
 田山・末寺山古墳群, (福井)朝倉氏遺跡, (長
 野)座光寺バイパス遺跡, 松本高校遺跡, (岐
 阜)史跡美濃国分寺跡, 羽生遺跡, 史跡弥勒寺

跡, 美濃古窯跡群, (静岡)伊庄谷横穴墳群,
(愛知)馬見塚遺跡, 尾張国府跡, 石塚古窯跡,
(三重)川原井遺跡, 齋宮跡, 北堀池遺跡, 天華
寺廃寺, (滋賀)檀木原遺跡, (京都)栗栖野
瓦窯跡, 史跡蛇塚古墳, 小塩地区山岳山林地域遺
跡, 恭仁宮跡, 上津遺跡, 京都市高速鉄道予定地
内遺跡, (大阪)亀井遺跡, (兵庫)緑ヶ丘遺
跡, 魚住古窯跡群, 福本遺跡, 丹波三ツ塚廃寺,
(奈良)鍵唐古遺跡, 史跡飛鳥寺跡, 高安城跡,
(和歌山)道成寺遺跡, 崎の湯湯壺, 船岡山遺
跡, (鳥取)上原遺跡, 広瀬廃寺跡, 伯耆国分寺
跡, (島根)尼寺原遺跡, 史跡富田城関連遺跡,
団原遺跡, 出雲国造館跡, (岡山)美作国分寺
跡, 東大寺瓦窯跡, (広島)寺田廃寺跡, 草戸千
軒町遺跡, (山口)長門国府周辺遺跡, 大内氏遺
跡, (徳島)阿波国分寺遺跡, (香川)青ノ山登
窯, 西村遺跡, (愛媛)永納山城跡, (高知)土
佐国衙跡, (福岡)太宰府跡関連史跡, (佐賀)
茶園原遺跡, 九州横断道遺跡, 名護屋城, 国府
跡, (熊本)平原瓦窯址, (鹿児島)薩摩国分寺
跡

埋蔵文化財ニュース刊行

- 第20号 昭和52年度埋蔵文化財関係調査報告書一
覧 1979年6月30日
第21号 昭和52年度埋蔵文化財関係記事等掲載一
覧(付行政資料) 1979年8月30日
第22号 国分寺等発掘調査関係文献目録 1979年
12月17日
第23号 遺跡の露出展示 1980年2月26日
第24号 鉄製遺物の保存法 1980年3月3日
第25号 埋蔵文化財調査センターの現状 1980年
3月18日

5 その他

委員会等

第6回飛鳥資料館運営協議会

- 1979年5月15日 於飛鳥資料館
平城・飛鳥藤原宮跡調査整備指導委員会
1979年5月25日・26日 於平城宮跡資料館
集落町並保存対策に関する研究集会
1979年12月4日・5日 於文化会館

外国出張

坪井清足 ドイツ考古学研究所 150周年記念国
際研究討論会議出席, ドイツ古代都城遺跡視察及

び調査研究のためドイツ連邦共和国に派遣。

1979年4月15日～同年5月4日

佐原 真 ドイツ考古学研究所 150周年記念国
際研究討論会議出席及びドイツ古代都城の調査研
究のためドイツ連邦共和国に派遣。

1979年4月15日～同年5月27日

木下 正史 「日本考古展」出品物の開梱, 陳
列, 撤収及び会期中における管理保全のためのキ
ューレーターとしてアメリカ合衆国・カナダに派
遣。

1979年4月26日～同年6月1日

宮本長二郎 第2回アジア太平洋文化財等保護
会議出席及び韓国内の建築遺跡の調査のため大韓
民国に派遣。

1979年5月27日～同年6月7日

工藤圭章 文部省在外研究員として建造物保存
と修理技術の比較研究のためスペイン・デンマー
ク・スウェーデンに派遣。

1979年6月4日～同年7月28日

坪井清足 米国ミシガン大学主催による日本考
古学に関する国際シンポジウムに参加及びアメリ
カ先史史跡の保存に関する調査と遺跡の視察のた
めアメリカ合衆国に派遣。

1979年10月3日～同年10月15日

山本忠尚 「日本考古展」出品物の開梱, 陳
列, 撤収及び会期中における管理保全のためのキ
ューレーターとしてアメリカ合衆国に派遣。

1979年11月3日～同年12月5日

猪熊兼勝 文部省在外研究員として古代墳墓の
築造法に関する調査研究のためブラジル・ペルー
・グアテマラ・メキシコに派遣。

1979年11月25日～1980年1月23日

西村 康 「日本古代文化史展」出品物の開梱,
陳列, 撤収及び会期中における管理保全のための
キューレーターとしてアメリカ合衆国に派遣。

1980年1月29日～同年3月6日

田中 琢 ギリシャにおける文化財の保護の沿
革とその保存活用体系の調査研究のためギリシャ
に派遣。

1980年3月17日～同年3月31日

協力事業等

文化庁では1971年度から特別史跡藤原宮跡の国
有化を進めており, 1972年度から当研究所が文化

庁から支出委任を受けて買取事務を担当しているが、1979年度の状況は下記の通り

区 分	面 積	購 入 額
1979年度	23,333.46㎡	416,473,779円
国有地合計	200,609.41	3,410,466,310

II 図書及び資料

図書 50,514冊

区 分	種 別	購 入	寄 贈	計
1979年	和漢書	1,750	2,847	4,597
	洋 書	274	56	330
累 計	和漢書	27,311	19,738	47,049
	洋 書	3,020	445	3,465

写真 191,904点 (1979年度末現在)

III 研究成果刊行物

1979年度刊行物

名	称
学 報 第37冊	飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅲ
学 報 第38冊	研究論集Ⅵ
史 料 第16冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅵ
史 料 第17冊	平城宮木簡(Ⅱ)図版
史 料 第18冊	藤原宮木簡(Ⅱ)図版
史 料 第19冊	東大寺文書目録第2巻
図 録 第6冊	飛鳥時代の古墳
基準資料第7冊	瓦編7
概 報 他	昭和53年度平城宮発掘調査概報 飛鳥・藤原宮発掘調査概報9 藤原宮出土木簡概報

前年度までの刊行物

奈良国立文化財研究所学報

年度	名	称
1954	第1冊	仏師運慶の研究
	第2冊	修学院離宮の復元的研究
1955	第3冊	文化史論叢
1956	第4冊	奈良時代僧房の研究
1957	第5冊	飛鳥寺発掘調査報告
1958	第6冊	中庭園文化史
	第7冊	興福寺食堂発掘調査報告

1959	第8冊	文化史論叢Ⅱ
	第9冊	川原寺発掘調査報告
1960	第10冊	平城宮跡・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告
1961	第11冊	院家建築の研究
1962	第12冊	巧匠安阿弥陀仏快慶
	第13冊	寝殿造系庭園の立地的考察
1963	第14冊	レースと金亀舍利塔に関する研究
	第15冊	平城宮発掘調査報告Ⅱ 官衙地域の調査
1963	第16冊	平城宮発掘調査報告Ⅲ 内裏地域の調査
1965	第17冊	平城宮発掘調査報告Ⅳ 官衙地域の調査
1966	第18冊	小堀邊州の作事
	第19冊	藤原氏の氏寺とその院家
1969	第20冊	名物裂の成立
1971	第21冊	研究論集Ⅰ
1973	第22冊	研究論集Ⅱ
1974	第23冊	平城宮発掘調査報告Ⅵ 平城京左京一条三坊の調査
	第24冊	高山一町並調査報告一
1975	第25冊	平城京左京三条二坊
	第26冊	平城宮発掘調査報告Ⅶ
1976	第27冊	飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅰ
	第28冊	研究論集Ⅲ
1976	第29冊	木曾奈良井一町並調査報告一
	第30冊	五条一町並調査の記録一
1977	第31冊	飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅱ
	第32冊	研究論集Ⅳ
1977	第33冊	イタリア中部の一山岳集落における 民家調査報告
	第34冊	平城宮発掘調査報告Ⅸ
1978	第35冊	研究論集Ⅴ
	第36冊	平城宮整備調査報告Ⅰ

奈良国立文化財研究所史料

年度	名	称
1954	第1冊	南無阿弥陀仏作善集(複製)
1955	第2冊	西大寺叡尊伝記集成
1963	第3冊	仁和寺史料 寺誌編1
1964	第4冊	俊乗坊重源史料集成
1966	第5冊	平城宮木簡Ⅰ 図版
1967	第6冊	仁和寺史料 寺誌編2
1969	第5冊	平城宮木簡Ⅰ 解説(別冊)
1970	第7冊	唐招提寺史料Ⅰ
1974	第8冊	平城宮木簡Ⅱ 図版・解説
1975	第9冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅰ
	第10冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅱ
1976	第11冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅲ
1977	第12冊	藤原宮木簡Ⅰ 図版・解説
	第13冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅳ
1978	第14冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅴ
	第15冊	東大寺文書目録第1巻

奈良国立文化財研究所基準資料

年度	名	称
1973	第1冊 瓦編1	解説
1974	第2冊 瓦編2	解説
1975	第3冊 瓦編3	
1976	第4冊 瓦編4	
	第5冊 瓦編5	
1978	第6冊 瓦編6	

飛鳥資料館図録

年度	名	称
1976	第1冊 飛鳥白鳳の在銘金銅仏	
	第2冊 飛鳥白鳳の在銘金銅仏 銘文篇	
1977	第3冊 日本古代の墓誌	
1978	第4冊 日本古代の墓誌 銘文編	
	第5冊 古代の誕生仏	

IV 定員

	指定職	行政一	行政二	研究職	計
1978年度	1	23	6	69	99
1979年度	1	23	6	69	99

V 予算(1979年度)

人件費	381,976千円
運営費	573,415
事業管理	10,049
一般研究	53,984
特別研究	2,164
発掘調査	346,254
宮跡整備管理	47,558
飛鳥資料館運営	45,234
埋蔵文化財センター運営	68,172
施設費	643,417
施設整備費	425,599
平城宮跡地等整備費	108,660
各所修繕	9,158
不動産購入費	100,000
計	1,598,808

VI 施設

土地 32,311㎡(当所所管)

新庁舎	8,860㎡	飛鳥資料館	17,092㎡
飛鳥資料館宿舍	1,343㎡	郡山宿舍	80㎡
春日野	5,136㎡		

1,187,534.67㎡(文化庁所管)

平城宮跡地区	986,054.73㎡
藤原宮跡地区	200,609.41㎡
飛鳥稻渕宮殿跡地	870.53㎡

建 物

建 物	新庁舎	平 城	藤 原	飛鳥資料館	春日野	計
	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡
事務室	543	1,820	503	152	797	3,815
研究室	1,433					1,433
資料・図書室	1,021				191	1,212
会議室	338	192		42	40	612
講堂				89	109	198
展示室		360		648		1,008
写真室	90	192	61	49	86	478
覆屋・展示棟		1,518				1,518
車庫		363	217	94	20	694
倉庫・収蔵庫	123	5,882	1,512			7,517
研修棟	1,318					1,318
その他	1,673	511	152	1,608	200	4,144
計	6,539	10,838	2,445	2,682	1,443	23,947
重要文化財 旧米谷家住宅						198
合 計						24,145

主要工事

(1) 施設整備費

図書資料棟改修工事	千円 5,600
埋蔵文化財センター研修棟床改修その他工事	4,042

(建設省近畿地方建設局委任工事分)

奈良国立文化財研究所新庁舎建築改修工事	264,770
〃	電気〃 83,880
〃	機械〃 85,300

(2) 平城宮跡地等整備費

平城宮跡環境整備工事	千円 57,500
藤原宮跡環境整備工事	6,700
特別史跡平城宮跡地形調査	1,670
平城宮跡地水質及び土質調査工事	5,450
平城宮跡内構内道路補修工事	628
平城宮跡水銀灯取設工事	1,200
〃南棟覆屋補修工事	660
平城資料館シャッター取設工事	4,697

(3) 庁費

機械室棟熱源機器その他設備工事	千円 27,000
埋蔵文化財センター研修棟視聴覚設備工事	4,925
〃	ガス冷暖房機取設工事
	7,300
飛鳥資料館庭園整備等工事	2,620
〃	裏山購入予定地測量
	563
特別史跡藤原宮跡地整備工事測量	641

Ⅶ 人事異動

(1979年4月1日～1980年3月31日)

4月1日 庶務部庶務課長に転任 三森 武雄
 国立国際美術館庶務課長に転任
 音川啓太郎
 埋蔵文化財センター教務室長に転任
 織井 弘一
 福井工業高等専門学校庶務課長に転任
 岡本 清
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部史料調査室長
 に昇任 加藤 優
 庶務部会計課経理係長に昇任
 冬野 徹
 埋蔵文化財センター研究指導部主任研
 究官に昇任 沢田 正昭・西村 康
 滋賀大学教育学部助教授に転任
 小笠原好彦
 平城宮跡発掘調査部考古第一調査室長
 に配置換 工楽 善通
 平城宮跡発掘調査部考古第二調査室長
 に配置換 森 郁夫
 平城宮跡発掘調査部史料調査室長に配
 置換 鬼頭 清明
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部考古第一調査
 室長に配置換 佐藤 興治
 飛鳥資料館学芸室長に配置換
 猪熊 兼勝
 埋蔵文化財センター研究指導部遺物処
 理研究室長に配置換 町田 章
 庶務部庶務課庶務係長に配置換
 西田 健三
 文部技官採用 上原 真人
 事務補佐員採用
 大場 範子・竹島 弘美
 研究補佐員採用 泉 雄二
 4月22日 辞職 秋本 喜子
 5月1日 事務補佐員採用 藤本 照子
 6月1日 庶務部会計課用度係長に配置換
 乾 敏光
 研究補佐員採用 盛 峰雄
 6月2日 辞職 広瀬 雅信
 9月1日 研究補佐員採用 大林 達夫
 10月20日 大阪大学学生課に転任 大西 肇

11月1日 庶務部会計課課長補佐に昇任
 廣澤 常一
 国立大洲青年の家庶務課長に転任
 吉田 博次
 12月1日 庶務部会計課に転任 外嶋 義広
 1月16日 平城宮跡発掘調査部長に転任
 岡田 英男
 文化庁文化財保護部建造物課主任文化
 財調査官に転任 工藤 圭章
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部長に配置換
 狩野 久
 1月29日 辞職 牧田 道子
 2月1日 文部技官採用 内田 昭人
 3月30日 辞職 内田 誠
 3月31日 辞職 吉田 恵二

Ⅷ 組織規定

文部省設置法 抜萃

昭和24年法律第146号
 昭和43年6月15日一部改正

第36条 第43条に規定するもののほか、文化庁に
 次の機関を置く。

国立文化財研究所（前後略）

第41条 国立文化財研究所は、文化財に関する調
 査研究、資料の作成及びその公表を行う機関と
 する。

2 国立文化財研究所の名称及び位置は、次のと
 おりとする。

名 称	位 置
東京国立文化財研究所	東 京 都
奈良国立文化財研究所	奈 良 市

3 国立文化財研究所には、支所を置くことがで
 きる。

4 国立文化財研究所及びその支所の内部組織は
 文部省令で定める。

文部省設置法施行規則 抜萃

昭和28年1月13日文部省令第2号、追加昭和43年6月15日
 文部省令第20号
 昭和45年4月17日文部省令第11号、
 昭和48年4月12日文部省令第6号、
 昭和49年4月11日文部省令第10号、
 昭和49年4月11日文部省令第10号、
 昭和50年4月2日文部省令第13号、
 昭和51年5月10日文部省令第16号、

昭和52年4月18日文部省令第10号、
昭和53年4月5日文部省令第19号、
昭和53年9月9日文部省令第33号

第5章 文化庁の附属機関

第4節 国立文化財研究所

第2款 奈良国立文化財研究所

(所長)

第123条 奈良国立文化財研究所に、所長を置く。

2 所長は所務を掌理する。

(内部組織)

第124条 奈良国立文化財研究所に、庶務部、美術工芸研究室、建造物研究室及び歴史研究室並びに平城宮跡発掘調査部及び飛鳥藤原宮跡発掘調査部を置く。

2 前項に定めるもののほか、奈良国立文化財研究所に、飛鳥資料館及び埋蔵文化財センターを置く。

(庶務部の分課及び事務)

第125条 庶務部に、次の二課を置く。

一 庶務課

二 会計課

2 庶務課においては、次の事務をつかさどる。

一 職員の人事に関する事務を処理すること。

二 職員の福利厚生に関する事務を処理すること。

三 公文書類の接受及び公印の管守その他庶務に関すること。

四 この研究所の所掌事務に関し、連絡調整すること。

五 この研究所の所掌に係る遺構及び遺物の保全のための警備に関すること。

六 前各号に掲げるもののほか、他の所掌に属しない事務を処理すること。

3 会計課においては、次の事務をつかさどる。

一 予算に関する事務を処理すること。

二 経費及び収入の決算その他会計に関する事務を処理すること。

三 行政財産及び物品の管理に関する事務を処理すること。

四 庁舎及び設備の維持、管理に関する事務を処理すること。

五 庁内の取締りに関すること。

(美術工芸研究室等の事務)

第127条 美術工芸研究室においては、絵画、彫刻、工芸品、書跡その他の有形文化財(次項及び第3項に規定するものを除く)、及び工芸技術に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。

2 建造物研究室においては、建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。

3 歴史研究室においては、考古及び史跡並びに歴史資料に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。

(平城宮跡発掘調査部の六室及び事務)

第128条 平城宮跡発掘調査部に、考古第一調査室、考古第二調査室、考古第三調査室、遺構調査室、計測修景調査室及び史料調査室を置く。

2 前項の各室においては、平城宮跡に関し、次項から第六項までに定める事務を処理するほかその発掘を行う。

3 考古第一調査室、考古第二調査室及び考古第三調査室においては、別に定めるところにより分担して、遺物(木簡を除く)の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行なう。

4 遺構調査室においては、遺構の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行なう。

5 計測修景調査室においては、遺構の計測及び修景並びにこれらに関する調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

6 史料調査室においては、木簡の保存整理及び調査研究、史料の収集及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

(飛鳥藤原宮跡発掘調査部の四室及び事務)

第129条 飛鳥藤原宮跡発掘調査部に、考古第一調査室、考古第二調査室、遺構調査室及び史料調査室を置く。

2 前項の各室においては、藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡に関し、次項から第五項までに定める事務を処理するほか、その発掘を行う。

3 考古第一調査室及び考古第二調査室においては、別に定めるところにより分担して、遺物(木簡を除く)の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

4 遺構調査室においては、遺構の保存整理及び

調査研究、遺構の計測及び修景並びにこれらに関する調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

- 5 史料調査室においては、木簡の保存整理及び調査研究、史料の収集及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

(飛鳥資料館)

第130条 飛鳥資料館においては、飛鳥地域の歴史的意義及び文化財に関し、国民の理解を深めるため、この地域に関する考古資料、歴史資料その他の資料を収集し、保管して公衆の観覧に供し、あわせてこれらに関する調査研究及び事業を行う。

(飛鳥資料館の館長)

第131条 飛鳥資料館に、館長を置く。

- 2 館長は、館務を掌理する。

(飛鳥資料館の二室及び事務)

第132条 飛鳥資料館に、庶務室及び学芸室を置く。

- 2 庶務室においては、飛鳥資料館の庶務、会計等に関する事務を処理する。

- 3 学芸室においては、次の事務をつかさどる。

- 一 飛鳥地域に関する考古資料、歴史資料、建造物、絵画、彫刻、典籍、古文書その他の資料の収集、保管、展示、模写、模造、写真の作成、調査研究及び解説を行うこと。

- 二 飛鳥地域に関する図書、写真その他の資料の収集、整理、保管、展示、閲覧及び調査研究を行うこと。

- 三 飛鳥資料館の事業に関する出版物の編集及び刊行並びに普及宣伝を行うこと。

(埋蔵文化財センター)

第133条 埋蔵文化財センターにおいては、次の事務をつかさどる。

- 一 埋蔵文化財に関し、調査研究及びその結果の公表を行うこと。

- 二 埋蔵文化財の調査及び保存整理に関し、地方公共団体の埋蔵文化財調査関係職員その他の関係者に対して、専門的、技術的な研修を行うこと。

- 三 埋蔵文化財の調査及び保存整理に関し、地方公共団体の機関その他関係の機関及び団体等の求めに応じ、専門的、技術的な指導及び助言を行うこと。

- 四 埋蔵文化財に関する情報資料の作成、収集、整理、保管及び調査研究を行い、並びに地方公共団体の機関その他関係の機関及び団体等の求めに応じ、その利用に供すること。

(埋蔵文化財センターの長)

第134条 埋蔵文化財センターに長を置く。

- 2 前項の長は、埋蔵文化財センターの事務を掌理する。

(埋蔵文化財センターの内部組織)

第135条 埋蔵文化財センターに、教務室、研究指導部及び情報資料室を置く。

(教務室の事務)

第136条 教務室においては、研修の実施に関する事務を処理するほか、埋蔵文化財センターの庶務に関する事務をつかさどる。

(研究指導部の五室及び事務)

第137条 研究指導部に、考古計画研究室、集落遺跡研究室、遺物処理研究室、測量研究室及び保存工学研究室を置く。

- 2 考古計画研究室においては、第133条第1号から第3号までに掲げる事務(他の室の所掌に属するものを除く。)をつかさどる。

- 3 集落遺跡研究室においては、集落遺跡に関し、第133条第1号から第3号までに掲げる事務(遺物処理研究室、測量研究室及び保存工学研究室の所掌に属するものを除く。)をつかさどる。

- 4 遺物処理研究室においては、遺物の処理に関し、第133条第1号から第3号までに掲げる事務をつかさどる。

- 5 測量研究室においては、埋蔵文化財の測量に関し、第133条第1号から第3号までに掲げる事務をつかさどる。

- 6 保存工学研究室においては、遺跡の保存整備に関し、第133条第1号から第3号までに掲げる事務をつかさどる。

(情報資料室の事務)

第138条 情報資料室においては、第133条第4号に掲げる事務をつかさどる。

職員

(1980年6月1日現在)

所属	氏名	官職	担当
	坪井 清足	文部技官 所長	
庶務課	森 春見	文部事務官 部長	
	三森 武雄	文部事務官 課長	庶務課長
	萩原 陽雄	文部事務官 課長	庶務課長補佐
	藤原 賢二	文部事務官 庶務	庶務係長
	西 忠雄	文部事務官 警務	警務員長
	木寅 光治	文部事務官 警務	警務員
	森田 博光	文部事務官 警務	警務員
	岡田 参夫	文部事務官 警務	警務員
	日高 扶桑	文部技官 専門	専門職員(併任)
	八幡 悦子	事務補佐員	
	穴戸 恵子	事務補佐員	
	港 村田	事務補佐員	
	宮本 宣代	事務補佐員	
	中川 か睦	事務補佐員	
	中垣 睦美	事務補佐員	
寺田 千鶴	事務補佐員		
城本 きよ	業務補佐員		
會計部	金塚 勇一	文部事務官 課長	課長補佐
	廣澤 常一	文部事務官 課長	課長補佐
	福島 郁夫	文部事務官 課長	課長補佐
	冬野 徹	文部事務官 課長	課長補佐
	忠利 重子	文部事務官 課長	課長補佐
	前川 重子	事務補佐員	
	橋本 伴子	事務補佐員	
	大西 和子	事務補佐員	
	新井 耕治	文部事務官 用度	用度係長
	刀谷 敏博	文部事務官 用度	用度係長
	中村 美千代	事務補佐員	
	中村 美千代	事務補佐員	
	藤本 千え	事務補佐員	
	太田 博夫	事務補佐員	
	福島 康史	文部技官 設備	設備係長(併任)
渡辺 康史	文部技官 設備	設備係長(併任)	
奥村 儀子	文部技官 設備	設備係長(併任)	
堀内 博子	文部技官 設備	設備係長(併任)	
西田 健三	文部事務官 専門	専門職員	
建造物研究室	吉田 靖雄	文部技官 室長	建築室長(併任)
	亀井 伸雄	文部技官 室長	建築室長(併任)
	清水 真一	文部技官 室長	建築室長(併任)
	加藤 允彦	文部技官 室長	建築室長(併任)
	上野 邦一	文部技官 室長	建築室長(併任)
歴史研究室	福山 敏男	文部技官 調査	調査員(非常勤)
	綾村 幸子	文部技官 調査	調査員(非常勤)
歴史研究室	田中 稔	文部技官 室長	室長(取扱)(併任)
	巽 淳一郎	文部技官 室長	室長(取扱)(併任)
	綾村 宏	文部技官 室長	室長(取扱)(併任)
	今泉 隆雄	文部技官 室長	室長(取扱)(併任)
	土肥 孝二	文部技官 室長	室長(取扱)(併任)
	山崎 信二	文部技官 室長	室長(取扱)(併任)
	堀池 春峰	文部技官 室長	室長(取扱)(併任)
	高田 久美子	文部技官 室長	室長(取扱)(併任)
	久美子	文部技官 室長	室長(取扱)(併任)
	久美子	文部技官 室長	室長(取扱)(併任)
	久美子	文部技官 室長	室長(取扱)(併任)
	久美子	文部技官 室長	室長(取扱)(併任)
	久美子	文部技官 室長	室長(取扱)(併任)
	久美子	文部技官 室長	室長(取扱)(併任)

所属	氏名	官職	担当	
平城宮跡発掘調査部	岡田 英男	文部技官 部長		
	考古第一調査室	工善通	文部技官 室長	考古室長
		菅原 正明	文部技官 室長	考古室長
		甲斐 忠彦	文部技官 室長	考古室長
		金子 裕之	文部技官 室長	考古室長
		上原 真扶	文部技官 室長	考古室長
		八幡 幹枝	文部技官 室長	考古室長
		佃 千恵子	文部技官 室長	考古室長
		池田 賀枝	文部技官 室長	考古室長
		吉村 司朗	文部技官 室長	考古室長
		石川 恵子	文部技官 室長	考古室長
	考古第二調査室	森田 郁夫	文部技官 室長	考古室長
		辺 征太郎	文部技官 室長	考古室長
		安田 竜太郎	文部技官 室長	考古室長
		巽 淳	文部技官 室長	考古室長
巽 淳		文部技官 室長	考古室長	
考古第三調査室	山本 尚道	文部技官 室長	考古室長	
	千田 剛彦	文部技官 室長	考古室長	
	毛利 友博	文部技官 室長	考古室長	
	中村 友博	文部技官 室長	考古室長	
	立木 友博	文部技官 室長	考古室長	
遺構調査室	宮本 二郎	文部技官 室長	建築室長	
	長井 伸雄	文部技官 室長	建築室長	
	清水 真一人	文部技官 室長	建築室長	
	清水 真一人	文部技官 室長	建築室長	
	清水 真一人	文部技官 室長	建築室長	
計測修景調査室	田中 哲雄	文部技官 室長	庭園室長	
	加藤 允彦	文部技官 室長	庭園室長	
	本中 昭人	文部技官 室長	庭園室長	
	内田 昭人	文部技官 室長	庭園室長	
	森 昭人	文部技官 室長	庭園室長	
史料調査室	鬼頭 清明	文部技官 室長	歴史室長	
	綾村 宏信	文部技官 室長	歴史室長	
	佐藤 善樹	文部技官 室長	歴史室長	
	佐藤 善樹	文部技官 室長	歴史室長	
	佐藤 善樹	文部技官 室長	歴史室長	
備前備後	木寅 忠雄	文部事務官 (兼任)	警務員(兼任)	
	森田 光治	文部事務官 (兼任)	警務員(兼任)	
	岡田 博光	文部事務官 (兼任)	警務員(兼任)	
	岡田 博光	文部事務官 (兼任)	警務員(兼任)	
	城本 きよ	業務補佐員 (兼任)	警務員(兼任)	

所属	氏名	官職	担当
飛鳥原官跡発掘調査部	狩野久	文部技官部長	古築古古真
	佐藤興治	文部技官室長	考建考考写
	藤野上川	文部技官室長	考歴考
	岩井本上	文部技官室長	建考考考
	木下正史	文部技官室長	歴考考考
	今西隆雄	文部技官室長	史古古古
	細見啓三	文部技官室長	築古古古
	岡本肥三	文部技官室長	史古古古
	土松孝司	文部技官室長	史古古古
	加藤優直	文部技官室長	史古古古
飛鳥資料館	森口節之	文部事務官室長	事務設
	外嶋義広	文部事務官室長	事務設
	飯村末信	文部事務官室長	事務設
	米田三子	文部事務官室長	事務設
	吉村郁子	文部事務官室長	事務設
	本村照春	文部事務官室長	事務設
	本福本清	文部事務官室長	事務設
	井清敏	文部事務官室長	事務設
	坪井清足	文部技官館長(取扱)	事務設
	西田健三	文部事務官室長	事務設

所属	氏名	官職	担当
飛鳥資料館	猪熊兼勝	文部技官室長	考古古古
	大脇津藤	文部技官室長	考古古古
	藤沢一夫	文部技官室長	考古古古
	田中稔	文部技官室長	事務務務
	織井弘一	文部事務官室長	事務務務
	小林雅弘	文部事務官室長	事務務務
	田中琢	文部技官部長	事務務務
	松沢亜生	文部技官室長	考古古古
	岩本圭輔	文部技官室長	考古古古
	飛鳥資料館	佐原真二	文部技官室長
山崎信二		文部技官室長	考古古古
町田章隆		文部技官室長	考古古古
秋山正昭		文部技官室長	考古古古
沢田敬蔵		文部技官室長	考古古古
木全敬蔵		文部技官室長	考古古古
松本伊東		文部技官室長	考古古古
西村啓示		文部技官室長	考古古古
原光拓		文部技官室長	考古古古
伊東太作		文部技官室長	考古古古

機 構

